

### 国民健康保険の都道府県単位化

**質問** 30年度から国民健康保険が県単位となるが、突発的な理由により保険給付費が不足した場合の責任主体はどうか。また、本市の国民健康保険事業基金の保有額は政令指定都市の中で一番多いが、保有の必要性と今後の活用方針をどのように考えているか。

**答弁** 国民健康保険の都道府県単位化により、県が財政運営の責任主体となり、給付に必要な費用は全額、県が市町に交付することとなる。それに伴い、従来、市で行ってきた突発的な理由により保険給付費が不足した場合への対応は、県が設置・運営する財政安定化基金により一時的に行うこととなり、翌年度の県への納付金額に上乗せする形となる。また、保有している基金は、制度改正に伴う激変緩和や年度当初の安定的なキャッシュフローの確保等に活用していく予定である。

### 地域包括ケアシステム

**質問** 在宅介護、在宅医療を進めるうえでの課題をどのように捉えているか。

**答弁** 主な課題として①一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯にどのように対応していくか、②在宅におけるたん吸引などの医療行為等による家族の負担感をどのように解消していくか、③24時間対応できる診療所や万が一の際の病院の受け入れなどバックアップ体制の充実、④安心して在宅生活を送るためのバリアフリー化など住環境の整備、以上4点が挙げられる。

これらの課題解決に向け、利用できる介護サービスの提供や在宅医療に係る専門職の連携などの在宅医療・介護連携推進事業に取り組んでいる。



医療・介護の専門職による検討会  
（「自宅ですつと」ミーティング）

### 手話言語条例

**質問** 全国で手話言語条例を制定する動きが進んでいるが、条例制定に向けた本市の進捗状況はどうか。また、28年度に発足した全国手話言語市区長会への加入についてどのように考えているか。

**答弁** 平成28年2月から市内関係団体と条例制定に関する検討を始め、これまでに4回の打ち合わせや文書による意見交換を行ったほか、既に条例を制定している他都市に対し、制定までの経緯や内容に関する調査を実施した。また現在、静岡県で議員発議による条例制定の本格的な検討が始まったと聞いており、今後その内容等も確認しながら、市の対応についてさらに検討を進めていく。

全国手話言語市区長会については、各都市の取組に関する情報収集の機会と捉え、加入について考えているところである。

### 語句説明

#### 手話言語

手話は、ろう者の考えや気持ちなどを手や指、表情で表現する「言語」「ことば」とされている。平成18年国連総会採択の障害者権利条約では「言語」と定義、平成23年障害者基本法改正では「言語に含む」とされるなど、日本語などと並ぶ「言語」との認識が広がっている。

#### 全国手話言語市区長会

国に「手話言語法」「情報・コミュニケーション法」の制定を求め、全国の自治体の関連条例制定を推進すること、各自治体における手話等に関する施策展開の情報交換を行うこと等を目的とする会。

### 電子母子健康手帳

**質問** パソコンやスマートフォンで利用できる電子母子健康手帳の導入についてどのように考えているか。

**答弁** 現行の母子健康手帳は、妊婦や胎児の状態を医療機関が記入したり、市が出生届出済証明を記入したりするなど、紙媒体でなければできないことがある。

一方、電子母子健康手帳では、記録がサーバーに保管されるため紛失の心配が少ないこと、健診記録の自動グラフ化や行政からの情報配信の機能があることなどの利点がある。

電子母子健康手帳の導入には、現行の紙の手帳の利点や子どもの成長を記録する民間のアプリ等既存のサービスがあることや、個人情報保護の観点から検証が必要であり、今後は他市の状況も注視し、研究していく。

## 市議会議員と話そう

### ～議員と高校生との初の意見交換会を開催しました～

静岡市議会では、「開かれた議会」の実現に向けて、市民と議員との距離を縮めるための事業の一環として、平成29年11月17日に市議会議員と高校生との意見交換会「市議会議員と話そうin市高」を、平成29年12月20日に「市議会議員と話そうin清水桜が丘」を、静岡市議会として初めて実施しました。



議会側から、議長、副議長及び各常任委員会の委員長の計8名、高校側からは、各校ともに20名ほどの生徒が参加しました。

意見交換会では、議長の挨拶の後、少人数に分かれてのグループディスカッションを行いました。



静岡市立高等学校:グループディスカッションの様子

静岡市立高等学校では、高校生への事前アンケートをもとに、「津波対策、地震対策」「人口減少」「奨学金」「消防団」「地域活性化」「自転車、道路」という、各常任委員会委員長の専門性に応じたテーマを設定。

\* 20分ごとに、議員が各グループを回り、それぞれのテーマで白熱した意見交換を行いました。

\* また、静岡市立清水桜が丘高等学校では、テーマを設定せず、何でもありの自由なディスカッションを実施。市高と同様に議員が各グループを回り、高校生の意見を聴くことを主体として、生徒全員と意見交換することを心掛けました。

\* 両校とも、行政全般にわたる様々な話題に意見が尽きず、時間が過ぎてもまだまだ話し足りない様子でした。

\* 高校生からは、「同じグループの中でいろいろな視点からの意見が出てとてもおもしろかった」「もっとこのようなディスカッションを増やしていけば市議会議員について知ることができて、関心を持てば投票率も上がると感じた」「このように市民と議員が肩の力を抜いて話す機会はないと思うので、今回のようなグループディスカッションを大人対象でやってもいいなと思った」などのご意見をいただきました。

\* 今後も、高校生に限らず、市民と議員との距離を縮める様々な取組を実施していきます。



静岡市立清水桜が丘高等学校:グループディスカッションの様子

## 陳情審査結果

1件の陳情が審査され、審査結果は次のとおりでした。

件名	結果
静岡市民文化会館の再整備に伴い文化芸術会館建設を求める陳情	不採択

## お知らせ

清水都心まちづくり特別委員長の栗田知明議員の委員長辞任に伴い、望月厚司議員が新たに同特別委員長に指名されました。